

11月末より4週間、地域研修として総合診療科に所属し総合診療科外来・救急外来で指導医の先生についていただきながら外来診察・入院管理を学びました。

新城市民病院では初診患者さんには総合診療科が窓口となって主な診療を行い、専門性の高い疾患については各科へ紹介する仕組みとなっているため、受診する患者さんの訴えは様々でした。

私にとっては初めて経験する疾患もあり、問診や身体診察も手探りの状態でしたが、鑑別疾患を考えながら問診・診察をすすめ実際に診断に結び付いた時には自信につながりました。

新型コロナウイルス感染症が流行している中、日本だけでなく世界中から新しい研究成果が報告されていますが、総合診療科の先生方の情報のアップデートはとても早く、常に最新の知見に基づいた判断がなされていました。

総合診療科の先生方のこの姿勢はコロナに限ったことではなく、日常診療でも同様でした。経験だけに頼らない根拠に基づいた検査・診断・治療が実践されており、医師としてこのように学び続けていかなければならないと決意を新たにしました。

また、忙しい外来診療の中で生活習慣病などに対する生活指導も欠かさず行っており、治療だけではなく予防にも重点をおいている点も印象的でした。

水曜日の午前には作手診療所での診療にも参加しました。

総合病院とは異なり、診療所ではできる検査の種類も限られているうえに、血液検査の結果も数日後にしか分かりません。そんな中で緊急性を判断し必要に応じて適切な病院に紹介する責任は重大です。正しい判断を一人で下さなければならないプレッシャーも重大だと感じました。

なにより印象的だったのは、診療所の先生や看護師さんがカルテを見なくても患者さんの抱える病気や性格などまで把握していたことです。診療所として地域住民全員の健康を管理しているのだと強く感じました。

研修のなかで、介護保険についても学ぶ機会がありました。特にこの地域は人口に対する高齢者の方の割合が高く、介護サービスの必要性が高いです。地域住民が健康に暮らすためには病院で薬を処方するだけでは十分ではなく、日常生活を快適に過ごすことも必要です。実際に、認知症の方をご家族が一人で介護し、疲弊しきって病院へ連れてこられるケースもあり、医療と介護は相補的なものだ実感しました。総合診療科の先生方は介護サービスにも精通しており、初診の患者さんの要介護認定などを確認し適切に介入していました。

新城での研修は、新城市民病院が地域で担う役割・総合診療科の先生方が地域医療に向き合う真剣な姿を目の当たりにする毎日でした。熱心にご指導いただいた総合診療科の先生方、外来・病棟看護師さんをはじめとして研修中に関わったすべてのスタッフの方々に感謝申し上げます。